

交通安全都市宣言3周年

悲惨な交通事故を絶滅しよう

「走る凶器」で肉親を奪われた 遺族の訴えを聞こう

この悲しみを

くり返さないで

十月二十六日午後九時三十分。時と言
うものがこれほどに、重要なものかと痛
感致しました。たった一分、いや一秒の
違いで私達をこんな悲惨な運命に落とし入
れる呪わしい事故は起らなかったらどう
にと。父はこの時、追廻し橋の横断歩道
を歩行中に、酔っぱらい運転の車にはね
られたのです。

商売柄遅い夕食を取っていた私達に、
近い出前だからと、出かけて行った切り
帰って来ない父。そして橋の上で事故が
有つたらしいとの知らせで、走つて行つ
た私達。現場に行つたら、血こん、そし
て散乱する父の靴、目鏡、すぐ病院へ走
ります。

どんななかつこうで、どんな気持で走つ
たでしょうか。走っている体だけが。異
様に大きく聞える心臓の音だけが自分の
物として感ぜられます。病院の手術台の
上の父の姿、うめき声、頭の白い包帯に
は血がどす黒くにじみ、鼻、口から、お
びただしい血が流れ出ています。そし

て、病室へ運んで、十一時三十分、脳底
骨折の為に意識もどらぬまゝ五十六才
の生を逝くしてしまつたのです。

自動車に、はねられる瞬間、何を思つ
たでしょうか。妻の事、子供の事、商売
の事。何もなかつたのでありましよう。
そこには生命の無い物が、尊い生命を奪
う無情な行為しなかつたのです。人間
が、人類の繁栄と福祉の為に、作り上げ
た物を、人間が操作していながら、その
人間を抹殺してしまふ。こんな大きな矛
盾が有つて良いものでしょうか。この様
な社会悪と言え事態が存在すると言ふ
事実、どう言ふ事なものでしょうか。

父の死につながる家庭的な悲しみ。お
じいさん、おばあさんは、打ちひがれて
急に老い込み、母はあまりの心痛の為
に、やせおとろえ、学校へ行つてい
る子供達は、男の子だと何も云わな
いじらしさ。そして一人になつた時
のあの悲しみ。どの様な言葉で、どの
様に表現すれば良いのか。私には語
る言葉が無いのです。皆が集まつて
談らんの一時も最後は必らず父の事
におよび、呪わしい思い出にか
らと言ふものは何か事故の事が氣になつ

て、今迄以上に耳にし心に
のこります。後も断たず、
毎日々々ひき続いて起きる
交通事故。その影には、大
なり小なり、私達と同じ運
命に涙する人が居るのかと思ふと、たま
らなくなりまふ。こんな悲しきは私達だ
けで沢山です。

法治国に法の保護に依つて、平和な生
活を営む権利を有する人間が其の法を犯
すと言ふ。言語道断な行為のもとに、無
惨な運命に会ふ。何と言ふ事でしょう
この痛々しい交通魔の恐怖を私は、社会
一般の人達に強く強く認識していただき
たいのです。私は父の生を奪つた人々に
くむ事の無い様に努力しています。しか
し全ての事故は、一般運転手のもう一步
の注意に依つて少なくなり最少限度のも
のにしたいとめる事が出来ると思ひます。

この様な痛ましい気持で生きねばなら
ぬ交通事故の犠牲者の遺族の多い実体を
真剣に見返してほしいのです。そして
社会の人達の協力を強調し我々一人
の強い自覚と崇高な精神の基に交通事故
絶滅が達成出来るかと確信致します。もう
一度訴えます。この様な悲しきは私達だ
けで沢山です。
この様な犠牲が少しでも少なくなる様
にしたいと祈る気持です。

長岡市殿町三丁目
土田和弘
(原文のまま)

宣 言

人間生活の幸福に奉仕するはずの道路交
通全般がいまや病魔とともに人間の生命を
おびやかす最も恐るべきものとなつたこと
は、二十世紀文明のもたらした人類最大の
悲劇といふべきであらう。

この現状に対処するため、わが長岡市
は、昭和三十六年十二月十六日県下初の交
通安全都市として「交通の安全維持に反す
る一切の行為を排除し、長岡市全域にわた
つて交通の恵沢を確保する。」ことを誓い
合い全国に宣言した。

ここに交通安全都市宣言三周年を機会に
交通道徳の一段の高揚と交通秩序の確立に
邁進するため十五万市民の総力を結集し、
それぞれの地域及び職場において決意を新
らたにこの目的の貫徹に挺身するとともに
長岡市の名譽にかけ悲惨な交通事故を絶滅
し、明るい住みよい大長岡市建設の実現を
期す。

右宣言する。

昭和三十九年十二月十六日

長岡市交通安全都市宣言
三周年記念市民大会

この悲しみをくり返さないで

配付にあたり

毎日どこかで交通事故が発生し
何人かが死んでゆき、何人かが
負傷して病院に運ばれてゆく、
なぜこのように事故が多いのだ
ろうか原因はいろいろあるであ
らう。

しかしかきに理窟を並べても死
んだ人は生きてかえらない、
「ケガ」もなおらない、被害者
の家族の方々のなげき悲しみを
思うと「交通事故は他人ごとで
はない」もつと身近に、その悲
惨さを、みんなが認識してもら
いたいとお願ひしたい。

「この悲しみを、くり返さない
で」の作文は去る十二月十六日
長岡市交通安全都市宣言三周年
記念市民大会の席上で発表いた
だいたもので、涙なくしては聞
けない悲痛な声であり、再びこ
うした事故が起らないように訴
えられた

この「悲壯なる声」を自分の声
として十五万全市民へお伝えす
るとともに生命の尊さをいま一
度思い起していただきたい。
この「悲壯なる声」によつて全
市民がこぞつて交通安全運動に
重大な関心をよせられ「交通安
全都市」長岡市の建設のため立
ちあがつていただければ「走る
凶器」も姿を消し、明るい住み
よい私たちの郷土をとりもどす
ことができるものと確信いたし
ます。

自動車を運転される人も自転車
にのられる人も歩行者も、どん
なに急ぐことがあつてもどのよ
うな理由があろうとも道路は自
分だけが通つていけるものではな
い、他人も通つていける、他の車
も走つていけることを自覚し、人
に迷惑をかけないでお互いにゆ
ずり合つて豊かな人間愛で悲惨
な交通事故を絶滅しましょう。

昭和三十九年十二月

長岡市交通安全市民運動推進協議会

会長 上村清五郎



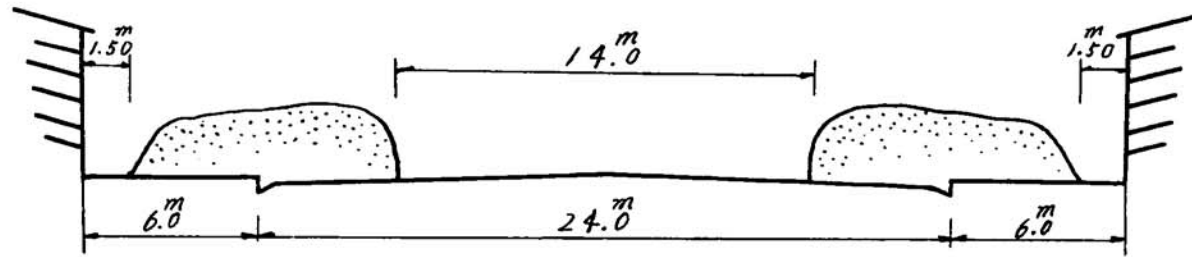
除雪についてお願い

1人ではだめ みんなの力で

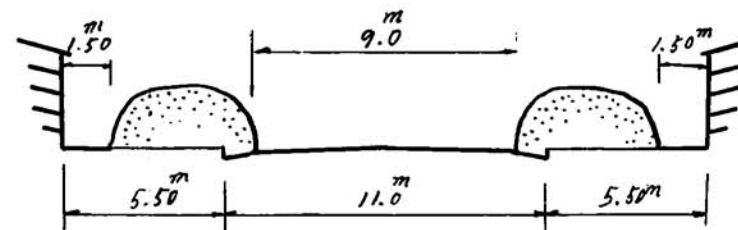
市民の皆さんや各町内に協力をお願いする事項。

除雪した道路には雪を捨てないでください

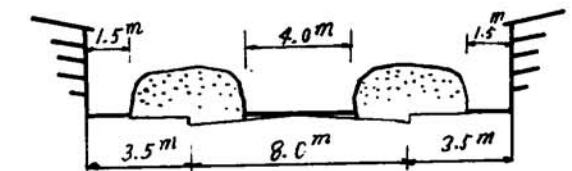
1. 屋根の雪おろし日を町内で定めた場合は、その指示にしたがって協力してください。
2. 道路以外に卸し場所のないところでは、道路交通の障害にならないように、路側に整然と積みかさねてください。
3. 機械除雪ができないところでは、でこぼこを整理して歩きやすくしてください。
4. 歩道は、歩行者が楽にすれ違いができる幅を確保してください。



車道巾員24メートル以上の路線は14メートルを確保



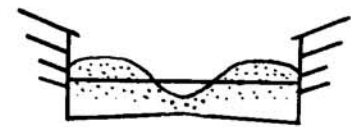
車道巾員11メートル以上の路線は9メートルを確保



車道巾員8メートル以上の路線は4メートルを確保

せまい道路で屋根の雪おろしのため、道路が山となったり坂となったりした場合、非常の際の消防車、雪上車の通行に支障とならないよう、隣組で協力して整理してください。

消防ポンプのそりが通行できる道は、どんなときでも確保するように協力して整備してください。(そり道は1.5メートル位は確保する)



でこぼこ道は整理してあるきやすく

雪すて場所について

市街地の雪捨て場所を柿川筋の宝田橋、安鉄橋、御幸橋、渡里橋、匠橋、栄橋、平潟橋、追廻し橋および、柏町地内柿川左岸上中島町3から、北中島町地内柿川左岸、蔵王町オーエム製作所空地とする。なお福島江、栖吉川その他の小河川については融雪時の浸水防止のため雪捨てを禁止しますのでご協力ください。

長岡市除雪会議

建設省北陸地建長岡工事々務所・県長岡土木出張所・長岡市からのお願い